

第4学年国語科学習指導案

1 単元名 ぼく・わたしのおすすめ伝え隊

2 単元の目標

○「対比」や「考えと例」という説明の仕方や効果を理解し使うことができる。

(知識及び技能(2)イ)

○段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。

(思考力、判断力、表現力等C(1)ア)

○対比して説明することや考えと例を挙げて説明することのよさを認識するとともに、自分が人に何かを伝える場面でその良さを生かすことができる。

(学びに向かう力、人間性等)

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・全体と中心など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 (C(1)ア)	・対比して説明することや考えと例を挙げて説明することのよさを認識するとともに、自分が人に何かを伝える場面でその良さを生かそうとしている。

4 単元について

(1) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では、新学習指導要領「2-C 読むこと」の(1)指導事項「構造と内容の把握 ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。」に関係して「対比」や「考えと例」を用いながら説明することの効果を知るとともに、その効果的な使い方を学ぶことをねらいとしている。

「商店の店員として商品をおすすめしよう」という言語活動を通して、筆者の考えの捉え方への理解を深めるとともに、自らが考えを伝えるときに使える力に転用できるようにしたい。

(2) 本単元における言語活動について

本単元のゴールとして、「商店の店員として商品をおすすめしよう」という言語活動を設定した。子供たちがAとBの題材を対比すると、「自分はAのほうが好き。」「Bのほうがよいと思う。」などと優劣をつけて考えをまとめてしまうのではないかという懸念があった。今回は優劣をつけることが目的ではなく、A、Bどちらについても場や状況に応じて使うことが大切という考えをもたせることが必要である。相手の目的に応じてという視点がぶれないようにするため、今回は自分がその商品を使うという設定ではなく、相手にどちらの商品の魅力も伝えられるようにするという設定を取り入れることとした。

さらに教材文から見つけた筆者の見方を生かしながら、自分で選んだ商品の特徴がより伝わるよ

うに項目を整理し、文章にまとめる。教材文を通して繰り返し学んだ方法を用いることで、書くことに苦手意識がある児童も、進んで取り組むことができるだろう。

「対比的な段落構成」が本教材の最大の特徴である。教材文の内容や書き方を理解し、「AとB」の特徴を踏まえておすすめするために、児童の身近な商品をまずたくさん集めさせ、対比させたい。初めから一つの題材に絞ってしまうのではなく、身の回りの様々な事例で考えることによって「対比」という手法の良さに気付くことができるだろう。その際、どちらかに優劣をつけるためではなく、相手により情報を伝えやすい手法として用いることをしっかりと押さえて取り組ませたい。最終的には、題材を絞り、自分の考えをまとめていく。そして共通の題材を選んだ児童を同じグループとし、グループ内でアドバイスをし合う活動を取り入れる。児童の実態として、その場で自分の考えを明確にして、相手に伝えることは難しい。そこで自分と同じ題材について、自分の考えと比較してアドバイスをする場であれば、具体的で適切なアドバイスができる考えた。

また、今回の学習はワークシートを活用して行う。対比を視覚からも分かりやすく伝えることができるため、児童は自分の考えを友達により分かりやすく伝えることができるだろう。視覚的に分かりやすいワークシートを用い、箇条書きで整理することによって文字を書くことを苦手としている児童でも、取り組みやすくなるを考える。さらに、友達の意見を共有することができるため、同じ題材を選んだ者同士でも違う視点が発見できたり、違う題材を選んだ者同士でも同じ理由が発見できたりと、考えを広げることができるだろう。

(3) (1) や (2) の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

①朝のスピーチ

自分の考えを学級の友達に伝えることは、一朝一夕にできることではない。声の大きさ、内容、話し方、自分には何が足りないかは実際にやってみることでしか分からないだろう。自分に足りない力を認識し、課題としてまた次のスピーチの準備をすることで、人に伝える力がついていくと考える。

②単元の学習計画表の作成

単元を通して身に付けたい力、その力を身に付けるための言語活動、言語活動の道筋を児童と共有しながら学習を進めるために、学習計画表を作成する。学習計画表には、単元を通して身に付けたい力を明記し、単元の導入時に児童と共有する。学習をどのように進めていくのかを話し合い、毎時間の学習計画を作成していく。本単元の終末の言語活動に向けて、どのように学習を進めていくのかの見通しをもって、学習を進められるようにしていきたい。また、毎時間の学習を振り返り、その時間に習得したことと感じたことを明確にしていくことで、自分にこんな力が付いたという児童の自信につなげたい。

5 児童の実態

(省略)

6 指導計画(全9時間)

次	時	学習活動	指導や支援の手立て◇評価(評価方法)
一	1	○「思いやりのデザイン」の表現の工夫を生かして、「4－2商店」の店員として、身近な商品をおすすめするという学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	・教材文を読み、身近にある「同じ場面で使えるけれど、使い分けているもの」を思い起こさせる。 ◇【態】学習の見通しを持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。(観察・記述)
	2	○「思いやりのデザイン」を読み、話題と文章構成を捉える。 ○筆者の考えと、それに対する自分の考えをまとめ、発表する。	・初め、中、終わりに何が書かれていたか、前の時間に確かめたことを振り返る。 ・AとBの案内図をワークシートを用いて「対比」の構造を理解できるようにする。 ◇筆者の考えと、それを支える例との関係を捉えている。[記述・発言]
二	3	○「アップとルーズで伝える」を読み、おすすめを伝えられる文章構成をさらに学ぶ。 ○筆者の考えの書かれ方について確かめる。 ○文章を「初め・中・終わり」に分ける。	・段落に番号を付け、写真と本文との関係を捉えるなどして、文章全体をつかむ。 ・筆者の考えが二度書かれていることを押さえ、その理由について考える。 ・段落に書かれている事柄と段落相互の関係を捉える。 ◇【思】段落相互の関係に着目して読み、文章構成を捉えている。(記述・発言)
	4	○第4・5段落を読み、内容を捉える。 ○第4・5段落と第6段落の関係を確かめる。 ○対比して説明することのよさについて考える。	・対比的に説明されていることをおさえる。 ・対比によって、それぞれの長所と短所が明確になっていることへの気づきを促す。 ◇【思】筆者の考えとそれを支える例との関係について、叙述を基に捉えている。(記述・発言)
	5	○第7段落の内容を捉える。 ○第8段落を読んで、筆者の考えを確かめる。	・自分の考えをまとめさせる。
三	6	○「4－2商店」でおすすめする商品を決め、それぞれの商品の特徴を対比を用いて、まとめていく。 ○おすすめの商品の「対比」の事例をワークシートにまとめ、同じ項目で対比になるように整理する。	・「思いやりのデザイン」「アップとルーズで伝える」で学んだ対比を掲示物やワークシートから想起させる。 ◇【態】自分が選んだ商品の特徴が伝わるように対比を用いてワークシートにまとめようとしている。(観察・記述)

	7	○特徴の中で、どれを説明に使うと相手によりおすすめの道具のよさが伝わるかを考える。 ○友達のアドバイスを受け、おすすめの商品のよさが相手に伝わるように作文を書く。	・前回の交流の内容や書き方の例示し、参考にし、作文に生かすようにする。 ・変更や付け足しできるよう付箋紙を活用する。 ◇【思】 対比と考えと例という表現の工夫を取り入れながら記述している。(記述)
	8 本時	○友達が考えた、おすすめ商品の紹介文を読み合い、特徴が対比によって分かりやすくなっているかについて交流する。	・表現の工夫が効果的に使われているかという点に注目させる。 ・考えを交流することで、多様な捉えに触れられるようにする。 ◇【思】 教材文の「対比」を踏まえて、自分の考えをまとめ、友達と交流している。(発言、ワークシート)
	9	○学習の振り返りをする。	・今後も、対比、考えと例を用いると自分の考えをよりわかりやすく伝えられるということに気付かせる。 ◇【態】 対比や考えと例をあげて、自分の考えを伝えることのよさを理解し、今後に生かそうとしている。(発言・記述)

7 本時の指導（8/9）

（1） 本時の題材

本時は、「思いやりのデザイン」と「アップとルーズ」で学んだ説明の仕方の工夫を参考にしながら、友達が考えたおすすめの商品についての特徴を読み手となって考える時間である。友達と交流しながら、整理していくことにより論理的な思考力とそれを表現する力が高まるものと考えた。

（2） 本時の目標

友達の選んだ商品のよさや違いについて自分の考えをまとめ、友達と交流している。

（思考・判断・表現）

（3） 本時の展開

学種活動と内容	指導や支援の手立て（◇評価）
1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 選んだ商品の特徴について対比をワークシートにまとめ、作文に書いている。	○選んだ商品の特徴について、対となる項目同士で対比することができるよう、「思いやりのデザイン」「アップとルーズ」で学んだ対比について掲示物やプリントで振り返らせる。
友達のおすすめ商品について自分の考えをもとう。	
2 AとBの商品の特徴を全体で考える。	○例を取り上げ、話し合いの仕方を具体的に提示する。 ○全体で話し合いの進め方を共有することで、円滑に活動できるようにする。
3 AとBの商品の作文を読み、「よく伝わってきたよさ」と「よく分かった」違いを考える。	○自分の考えを付箋に書く。書いた付箋を貼りながら、グループの友達と情報を共有する。 ○商品の特徴を分かりやすく伝えているのはどこかという視点で発言するように促す。 ◇教材文の「対比」を踏まえて、自分の考えをまとめ、友達と交流している。（発言、ワークシート）
4 「考えについての感想」を全体で共有する。 - その商品についてどのような見方で読み取ったか。 - 自分の考えと友達の考えで違いはあったか。	○3で交流して得たアドバイスをもとに、付け足しがあればワークシートに書き足すよう助言する。
5 本時の振り返りをし、次時の見通しを持つ。 学習全体の振り返りを行う。	○商品の特徴を分かりやすく伝えているのはどこかという視点で発言するように促す。

ふたつき筆箱



ファスナータイプの筆箱



えんぴつが一本ずつ入れられる。



整理整頓のしやすさ

えんぴつやペンをまとめて入れる。



えんぴつにキャップをつけなくても
芯が折れない。



中身の保護

キャップを鉛筆につけないと、芯が折れ



ぱっと見て、中の様子がよく分かるので、
忘れ物が減る。



忘れ物

中身が乱雑になりやすく、ぱっと見て中
は分かりにくい。



かさばって、引き出しやランドセルに
入らない時がある。



かさばるか

中に入れるものに応じて形が変わるの
だしやランドセルに収まりやすい。



箱形のデザインに限定されるため、
好みによってデザインを選ぶことはできない。



デザイン

様々なデザインのものがあり、好きなデザ
インを選ぶ。



価格が高いものが多い。



値段

蓋つき筆箱より安価。



コンパスや分度器などは、入らない。



容量

コンパスや分度器なども入る。



【例文】

ふたつき筆箱とファスナータイプの筆箱

みなさんは、今使っている筆箱を買いかえるとしたら、どんな筆箱を選びますか。

ふたつき筆箱は、えんぴつを一本ずつ入れることができます。そのため、えんぴつの芯が折れづらく、中身がぱっとみて分かるので、忘れ物にも気が付きやすいのが特徴です。しかし、算数で使うコンパスや三角じょうぎなどを入れることはできません。

ファスナータイプの筆箱は、形が変わりやすく、容量も入れたいものに合わせて選べるので、コンパスや分度器、三角じょうぎなど必要なものをたくさん入れることができます。しかし、中身がばらばらになりやすく、えんぴつはキャップをしないと折れてしまうところは不便です。

学校や習い事など、あなたが筆箱を使う場面に合わせて、この二つの道具を使い分けるとよいと思います。

はさみとカッターナイフ

物を切る道具には、はさみとカッターナイフがあります。はさみは、工作など自分の切りたいものを切りたい形に切ることに向いている道具です。また、手軽に使うことができ、小さい子でも安全です。しかし、はさみは紙のはじからしか切ることができないので、紙の中心を切り抜きたいときには不便です。

いっぽうカッターナイフは、工作やカードづくりなどで紙の中心を切り抜きたいときに便利な道具です。カッターマットを用いれば、好きな形に切り抜くことができます。しかし、刃を出し入れしたり、切るときに手を怪我しないように注意を払う必要があり、手軽に使うことはできません。

物を切るときに使う二つの道具ですが、使う場面に応じて選ぶことが大切です。